

# 賀茂縣主だより

所 人 主 会  
法 団 縣 族  
財 賀 賀 同  
賀 茂 縣 族 同 会

家系図提出のお願い  
先般承蒙願ひしております「家系図」未提出の方は至急ご提出下さい。本文六頁「系図、名簿チーム活動状況」にあります如く十四年一月末日を最終締切日とさせていただきますのでご了承下さい。

## 新年のご挨拶

理事長 西池 成晃

新年おめでとうございます。

皆様におかせられますは佳きお正月をお迎えになったこととお慶び申し上げます。

いつもは同族会の諸事業に対し深いご理解と力強いご支援を賜り有難く厚くお礼申し上げます。

ことに毎年お願いしています助成金につきましても格別なご援助を賜り重ねて厚くお礼申し上げます。ついで乍ら本年につきましても特段のお願いを申し上げます。

新年を迎えるに当り神山の峯にお坐します賀茂の大神のご神威の益々盛んならんとこと大神様からの同族会並に会員の皆様へのご加護を祈願する次第です。

昨年の同族会活動を省みますとチーム活動を始め関係役職者の強力な活動が多くみられた一年でありました。

祖先祭に際しては内部講師(理事)による「カモの心・過・今・来」と題して将に風化せんとしている古くからのカモの心の一側面について講演をしていただき我々後輩にとっては大変貴重なお話でした。

また「歴史勉強チーム」からは小冊子「御手洗のうたかた」をものし皆様にお届けすることがで

きました。これはリーダーのご盡力とチーム全員の協力の賜ものと深く感謝しています。

さらに関東支部では「カモの歴史」の勉強会開催要望が出され昨年十二月一日に内部講師(理事)が京都から出向き学術的な勉強会が行われました。東京中野の貞源寺(住職藤木芳清氏)へ関東在住二十二名の方々が集い熱心に討論がなされました。同地での今後さらなる展開が期待される

ところです。

一方、会務の方でも昨年始めから進めています「細則」の作成については制定計画本数十七本のうち十本が作成作業を終えこのうち六本が既に施行、四本が成立手続待ちとなっております。

これら力強い進捗状態をふまえ今年の基本的活動方針を「更に結束を高めること、カモ文化の学習を進め次の展開に備えること」としこれに沿った具体策を進めて参りたいと思います。何とぞよろしくご指導、ご支援をお願い申し上げます。

同族会は全会員のものでもあります。全員の手で体勢、風土を築いてゆかねばその存在意義を失うものと考えます。

最後に当り本年の同族会諸行事へ皆様方が元気なお姿で多数ご参加いただけることを願ひいたしますとともにご家族のご多幸をお祈り申し上げます。

(付記)  
注1 堀内保丸理事による。  
注2 梅辻諄評議員(リーダー)による。  
注3 藤木文雄理事による。

とくにご盡力をいただいた右の方々に謝意をこめ付記いたします。



大田神社(由緒は5頁参照) 撮影 岡本 清信氏



平成十三年十月二十八日  
賀茂縣主同族会祖先祭  
(敬称略)

岡本 藤木 浦野 西池 藤木 戸田 山本 山本 山本 藤木  
 啄也 邦夫 隆造 茂輝 節子 浩久 裕司 文雄

岡本 岡本 藤木 岡本 山本 浦野 山本 藤木 藤木 西池 堀内 一浦 西池 井関 井関  
 清信 季幸 佐稚子 映子 登久子 賀子 愛子 典直 直介 華子 邦保 雄三 成俊 美幸 佳直

藤木 堀川 堀内 羽野 山本 北大路 藤木 岡本 堀内 岡本 岡本 東辻 東辻 岡本 岡本 山本 市 山本  
 保誠 潤 睿子 京子 てふ 和子 十紫子 正保 保丸 保臣 洋子 正子 保和 房江 静江 敏子 真由美 紀博

市 藤木 藤木 藤木 岡本 西池 岡本 太田 芝 西池 北大路 市 藤木 松田 北大路 北大路 北大路 山本 山本 錦部 錦部 梅辻  
 忠顕 稔子 伸子 和子 吉子 ふみ子 五保 重明 常清 成晃 元顕 和顕 光男 一雄 みよ子 葵子 澄代 信吾 健太 (美清) 俊和 清織 諄

## 望郷の味「賀茂茄子」

東京在住 岡本 清孝

昔は食べ物の話しをするなど卑しい限りである、とされていたものであるが、唯でさえ男が厨房に入るなど論外であった。その論外の世界に私ははまりこんでしまった。

二十歳で上賀茂を去ってしまった男が、関東の地から幼時、少年期を思い起こすのも、何か恥づかしい心境であるが、中国の古い諺に「身土不二」と言うのがある。

ご存じの方も多いと思うが、「人は生まれた土地から五里四方（現在の数値で換算すると半径約25km）内で生活すべし、生まれた土地の作物を食べ、生まれた土地で働き、生まれた土地で一生を終えること」とある。

若気の至りと言うか、今日まで無我夢中で働いていた自分が、ふと立ち止まり、振り返る時間が少しずつ始めてきた。そして自分の人生に執着があることを意識するようにもなった。

重ねて感ずることは、故郷を捨てるものではないと言う事である。

平和な半世紀を過ごすことが出来た我

我であるが、平和ボケが蔓延化している

ことも事実で、いつか危機が訪れることも覚悟はしておかねばならぬ、などと後輩達に話すきっかけが幾度かはあった。

しかし、九月十一日のような形で世界を震撼とさせるようになるとは、正に予想外の出来事であった。どのような結末になるのか神のみぞ知る、と言うべきか答えは未知数である。

私の少年期は第二次大戦の最中であった。大人になれば兵隊になるのだ、等と真剣に思っていたものだ。

兄が予科練に合格し、三条京阪の駅で盛大な壮行会をやって頂いた時の兄達の顔がまぶしく、立派に見えたものだ。今でもそれが昨日のこのように思い出される。

しかし少年時代の思い出は腹ぺこの毎日であったことだ。

幸い我が家の庭は広い方であったが、家族も八人の大所帯である。家庭菜園でいくらかの足しにはなったが、両親も並大抵ではなかったと思う。

深泥池あたりからやってくる農家のおばさんが、「奥さんスグキはいらんかねー」と言いながら勝手に庭に入ってくる

行商姿。これも懐かしい思い出である。

戦時下とはいえ、当時はまだのんびり

していたものだ。終戦間近の頃も賀茂茄子ばかり食べていた記憶がある。今なら大変贅沢なおかずであるが、調味料も殆ど無い。しかも米粒が全く姿を消していたのだ。いくら高級な賀茂茄子でも、茄子では空腹を満たすことは出来ない。

そんなひもじい京都を後に、食の世界を目指して大阪へ修行に出た。思えばここから京都へは戻れない人生が始まってしまった。

人生上のきつかけと言うものは不思議である。多分若者の野心がそうさせたのだろうか「大学は東京へ」と思い込んでいた。一応六大学の一つには合格したが、折悪しく父は脳溢血で倒れ、以後三年間寝たきりの状態のまま人生を終えてしまった。

当時の不景気は今のようなものではなく、バイトをしながらの大学生活は殆ど不可能に近いものがあった。

止む無く京都へ帰り、母親が経営していた銀閣寺の料理教室を手伝いたい旨、相談を持ちかけたが、予想外に母の答えは厳しく、本気で料理の道に入る覚悟なら大阪で修行をするよう説得を受けた。

勿論修業先は母の紹介による辻先生の学

校であった。

戦後の父は事業の連続しくじりであったが、その姿を見ていた小生が、いつしか世の中を僻む目で眺める節があったと思う。

そんな小生を成功者の元で修行させつゝ世間を広く見なおすべく、その機会を与えてくれたのであろう。

希望を新たに食の道を歩み始めたが、その第一歩は自尊心を捨て去るところからであった。私の強い小生はこれが中々理解出来ず、師匠を随分梃子摺らせたものである。

ようやく師匠の姿勢に追従出来るようになるには三年もかかっていた。

しかし、この道を歩んだお陰で今日がある事を深く感謝している。

現在、世間における食の道はグルメ三昧である。小生はこの状況から脱却すべく、食の原点を見出すことに精力を傾けている。

中国の伝統医学と栄養学を学んだことで、温故知新の意味合いを深く味わっているつもりである。

まだまだ人生の修行は続く。



祖先祭に思うこと

上賀茂在住 山本 裕司

私は、四十五歳になってから同族会に入会し、祖先祭をはじめ、いろいろな行事に親子共々参加させて頂いております。若い時は、社家であることに何ら関心も無く、関わりも無く過ぎてきました。

一昨年、北大路副理事長よりお声をかけて頂き、子供が曲水の宴に奉仕させて頂いたことがきっかけとなり、又理事の方々に同級生がいたこともあり、双方の方々にいろいろと教えて頂くことができ、今もって何もわからない私ですが、同族会の仲間入りすることが出来た次第です。

祖先祭に参列して思うことですが。現在、私の次男は小学校二年生なので、講演の内容が難しく、たいくつしてしまふようです。祖先祭は、祭儀のため大人の出席者が多く、現在行われている次第（プログラム）により斉行されていると思います。

家族で参加している私どもは、子供が他の方々の迷惑にならないかと、かえって気になりゆっくりとお話も聞けない状態です。

そこで、子供達には「私達の祖先」

「神社と社家」の事など、わかりやすく教えて頂ける場を作っていただけると、家族での参加、又若い方の参加も増えてよいのではないかと思います。

何より重要だと感じられるのは、次の世代のため子供の頃から、「神社と社家（県主同族会）」に関わりを持ち、同族会の発展に寄与してほしいと願うからです。

〔会務速報〕  
役員人事について

北大路 元顯

理事、副理事長、理事長と長年に亘り同族会に寄与されて来ましたが、現常務理事

（会計担当）関目季弘氏は平成十三年十月二十一日付で一身上（病气）の都合により退任されました。役員で就任中は会務の為に不断の努力を重ねられ今回同族会の一役の役職を退かれる事は私共にとつて誠に堪えがたい事ではありますが関目さんのご病状快復の一日も早い事を祈念しつつご報告致します。

此の結果同年十月二十一日付で、藤木啄也氏（会計担当）藤木文雄氏が理事に選出、又関連人事として、堀内邦保、山本浩久両氏を評議員に選出致しました。

葵歌壇

上賀茂 岡本 光子

初日の出

あまて 初日の出  
いづくしましや はつひ  
天照らす 厳島社の初日の出  
らうとうたま 御加護を祈る

冷泉家玉緒会所属

上賀茂 北大路 和子

霧中雁

風さむみ霧に迷へる遅れ雁  
刈田に落つる雪の夕くれ

見えかくれ遠さかり行く一連の

霧のなかななる初雁の声

時雨

かんなき 時雨  
神無月降りも定めぬ深山辺の

時雨の糸は錦織ゆく

網代

氷魚より来る宇治の網代木

氷魚より来る宇治の網代木

○平成十三年九月平成歌会に入選した歌

薄

きぬきぬのあした露けき花薄  
君かひれ振る袖と見ゆらん

在實一千年祭にむけての投稿（其八）

京都市北区上賀茂 岡本 光子

明治四十年四月二十八日

中祖在實君 九百年薦事報告書より

五十二首の内の五首

献備之歌

对花言志

従八位 重久安都男

師木嶋の やまと心のいさきよき  
ほまれをみせて 散櫻かな

小野村清風

かそふれは 千とせに近き神垣の

花にむかしの 春をしそおもふ

宇野昌久

いつまでも 咲にほいたる神山の  
此花を見て世をすこすらむ

山田壽房

さきにほふ 花も哀れと思覽

昔の人の かけのみえねは

吉川正次

待ほとは 久しとおもひし櫻花

さかりの時に 成りにけるかな